

永井式 証券会社選別法

目次

目次.....	2
著作権について.....	3
使用許諾契約書.....	3
1. わからない事はコメントにて質問して下さい。.....	4
2. 証券口座が無ければ何も始まらない.....	5
3. FX はレバレッジありきの投資案件.....	6
4. レバレッジは最低でも200倍は欲しい.....	7
5. 国内口座のメリット・デメリット.....	8
6. 国内法人口座の現状.....	9
7. 4000万まで耐えて下さい。.....	10
8. 海外口座のメリット・デメリット.....	11
9. 永井大好き!! オージー系.....	12
11. 永井が利用していた海外口座.....	14
12. 海外口座 口座開設マニュアル.....	15
13. NDD(ECN) 口座って何?.....	16
14. 永井翔が利用していた国内口座.....	17

著作権について

本冊子と表記は、著作権法で保護されている著作物です。
本冊子の著作権は、発行者にあります。
本冊子の使用に関しましては、以下の点にご注意ください。

使用許諾契約書

本契約は、本冊子を購入した個人・法人(以下、甲と称す)と発行者(以下、乙と称す)との間で合意した契約です。本冊子を甲が受け取り開封することにより、甲はこの契約に同意したことになります。

第1条 本契約の目的：

乙が著作権を有する本冊子に含まれる情報を、本契約に基づき甲が非独占的に使用する権利を承諾するものです。

第2条 禁止事項：

本冊子に含まれる情報は、著作権法によって保護されています。甲は本冊子から得た情報を、乙の書面による事前許可を得ずして出版・講演活動および電子メディアによる配信等により一般公開することを禁じます。特に当ファイルを第三者に渡すことは厳しく禁じます。甲は、自らの事業、所属する会社および関連組織においてのみ本冊子に含まれる情報を使用できるものとします。

第3条 損害賠償：

甲が本契約の第2条に違反し、乙に損害が生じた場合、甲は乙に対し、違約金が発生する場合がございますのでご注意ください。

第4条 契約の解除：

甲が本契約に違反したと乙が判断した場合には、乙は使用許諾契約書を解除することができるものとします。

第5条 責任の範囲：

本冊子の情報の使用の一切の責任は甲にあり、この情報を使って損害が生じたとしても一切の責任を負いません。

1. わからない事はコメントにて質問して下さい。

この度は、

『永井式 証券会社 選別法』をお受け取り頂き、本当にありがとうございます。

この『永井式 証券会社 選別法』では、

私が毎年1回、全58社もの証券口座調査を行い続けた結果をお伝えするとともに、
あなたの資産状況にマッチした最適な証券会社を選ぶ為のお手伝いをさせていただきます。

インターネット上に転がっている更新もしない比較サイトとは違い、

毎年、証券口座の情勢をチェックし、更新を重ねている資料となっておりますので、
情報の信憑性はどのサイトよりも高いと自負しております。

勿論、証券口座に関して何か動きがあれば、

当マニュアル、動画を更新させて頂き、その時の最適な証券口座を
おススメさせていただきますので、是非とも参考にして頂けましたら幸いです。

勿論、わからない事がありましたら、

動画の下のコメントを利用して頂き、
何でも質問して頂ければと思います。

質問に関して、

基本的には証券口座に関する問い合わせを
行って欲しいのですが、

その他に聞きたい事があれば、

何でも聞いて頂いて構いません。

応えられる限りの範囲で

応えさせていただきますので、

どうぞ、よろしく願いいたします。



2. 証券口座が無ければ何も始まらない

この『証券会社選別法』では、
これから FX（外国為替証拠金取引）を始めるにあたって、
必ず作成しなければならない証券口座について説明します。

証券口座という概念を知らない方に向け、簡単に説明させて頂くと、

レバレッジを効かせて為替取引（FX）を行う為には、
証券会社ごとに微妙に特性が異なる証券口座というものを作成し、
その口座経由で取引を行う必要があります。

間違っても、通常の銀行口座から FX を実践する出来ませんし、
FX を試すにしても、証券口座を 1 つも持っていない状態では、
デモトレードを行う事も出来ませんので、
この『永井式 証券会社 選別法』を参考にして頂き証券口座を作成して下さいね。

**なお、証券口座の作成には 1 週間程度のお時間が掛り、
身分確認のために『身分証明書と住所確認書類』を提示しなければなりません。**

証券口座を作成する前に、身分証明書のコピーor 画像データや
直近 3 カ月の住所確認書類のコピーor 画像データを用意しておいてくださいね。

FX に対する基礎知識・取引方法などに関しては、
今後、ゆっくり、丁寧に説明していく予定ですので、楽しみにして置いて下さい。

では、私が**累計 58 社**に及ぶ証券口座を作成し、
毎年、欠かさずに証券会社のチェックを行い続けてきた結果、導き出した
『永井式証券会社選別法』の全貌をご覧ください。

FX に対してズブの素人という人も多いと思いますので、
まずは・・・レバレッジという概念と、国内口座・海外口座の違いを
理解して貰えたらと思います。

3. FX はレバレッジありきの投資案件

まず、証券会社を作る上での知識として覚えておいて欲しい事が証券口座とレバレッジの関係性に関してです。

日本では 2009 年に起きたリーマンショックにより、2010 年、2011 年と 2 年連続でレバレッジに対する規制を設け、国内口座での取引は『25 倍までのレバレッジ』と定める法令が出来ました。

それまでの国内口座は、レバレッジ規制など無く 300 倍、500 倍と自由にレバレッジを決める事が出来たのですが、今現在は法令で**個人口座 25 倍まで、法人口座 200 倍まで**と定められていますので、非常に個人投資家が FX を実践し辛い時代となっています。

レバレッジ 25 倍という数字に対してピンとこない人が多いと思いますので、1 つ具体例を出して、丁寧に説明して行きましょう。

- ・ 初期準備金は 10 万円
 - ・ レバレッジ 25 倍の国内口座を利用
- ⇒ 10 万円 × 25 倍 = 250 万円分の取引が可能

普段は準備金に対する 3 割程度を投資額とするのが通常ですが、今回は事例という事で、準備金全てを取引に使ったと仮定します。

- ・ 1 ドルが 120.00 円の時にドルを円で買った (ドル円を買った)
- ⇒ 250 万円 ÷ 120.00 = 20,833 ドル

- ・ 1 ドルが 120.50 の時にドルを売り円に戻した (ドル円を売った)
- 20,833 ドル × 120.50 = 2,510,416 円 (10,416 円の利益)

ここでは、証券会社に支払わなければならないスプレッド (手数料) や、証拠金維持率という概念に関して計算せず、シンプルに仕組みを理解して貰いましたが、

50 銭動いても、(デイトレーダーにとって 50 銭取ることは何気に大変な数字) レバレッジが小さい限り投資資金の 1/10 程度しか利益を出す事は出来ないのです。

4. レバレッジは最低でも200倍は欲しい

国内口座の個人口座は 25 倍、法人口座は 200 倍までとレバレッジが定められた以上、その制限内でしか取引が出来ないのかというと、そんな事はありません。

海外に拠点を構える証券会社を利用すれば、リーマンショック前の国内口座の様に **200 倍、500 倍、700 倍といったレバレッジを掛けて取引を行う事は可能**です。

正直、日本口座・海外口座、双方にメリットとデメリットが混在するので、どのタイプの証券口座で取引する事が、あなたにとってベストなのかは、人それぞれの資産計画によって異なってくると思います。

ですが、私から言わせれば**投資準備金が 4000 万円貯まるまでは、海外口座でレバレッジを張っていかなければ、FX を行う価値は無いと思っています。**

なぜなら、FX の最大の魅力は 1 日 500 兆円に上る取引額の大きさにあり、**取引額（ロットサイズ）を青天井に引き上げる事が出来る**ことが最大の魅力なのは間違いからです。

勿論、レバレッジを上げて取引額を大きくするという事はリターンを大きくする代わりにリスクも大きくするという事に繋がりますが、

50 銭というビックチャンスをつ掴んでも、1/10 程度の利益しか確保出来ないのでは、トレード資金を増やして行くのに、それ相応の時間を要する事を意味しているのです。

もし前ページで説明した事例のレバレッジが 300 倍ならば・・・

- ・初期準備金は 10 万円
- ・レバレッジ 300 倍の国内口座を利用

⇒10 万円×300 倍＝3000 万円分の取引が可能

- ・1 ドルが 120.00 円の時にドルを円で買った（ドル円を買った）

⇒3000 万円÷120.00＝250,000 ドル

- ・1 ドルが 120.50 の時にドルを売り円に戻した（ドル円を売った）

250,000 ドル×120.50＝30,125,000 円 **(125,000 円の利益)**

5. 国内口座のメリット・デメリット

レバレッジという FX 最大の恩恵が無いにしても
国内口座は多くのメリットはありますので、
1つずつ丁寧に説明して行こうと思います。

【 国内口座のメリット 】

①スプレッド・手数料が小さい

└ 取引の度に掛るスプレッド（手数料）が小さいのは
国内口座の最たるメリットです。

②サポートも的確、信用力もある。

└ 初めて証券口座を扱う人にとってわからない事が多い中、
国内口座でしたら電話対応も受けてくれますのでサポート体制も万全です。

③税制面での優遇

└ 個人・法人問わず一律課税 20%

海外口座は利益額によって MAX50%までの課税対象となりますので、
取引額が大きい人は国内法人口座がベストな選択肢です。

【 国内口座のデメリット 】

これは、たった1つしかありません。

先ほども説明してきたレバレッジ。これしか本当にデメリットはありません。

シンガポールに行こうとか、タクスフリーの国に行こうとか、詐欺的な話は多いですが、
資金量があり、法人化する事に問題が無い人ならば迷わず国内法人口座を選択して下さい。

国内法人口座も最初の2年間位はレバレッジを制限してきますが（50倍程度）
取引を繰り返して行く内に、徐々にレバレッジを上げてくれます。

ですが、先ほどもお伝えしたように法人設立が難しく
証券取引を行う準備金が4000万円以下の方は国内口座をおススメする事は出来ません。

国内個人口座に許されたレバレッジ25倍では、
本当にゆっくり成果を上げて行くことしかできませんので、
海外口座でゆっくり資金を作ったのち、
法人設立が出来るタイミングで国内口座へシフトする事をおススメします。

6. 国内法人口座の現状

正直な意見を伝えさせて頂くと、
国内法人口座も非常に作り辛い時代になっております。

まず、法人の資本金に関してですが、
ゼロ円法人の様な資本金が少額の企業では審査で落とされてしまいます。
こちらに関して、最低でも資本金 300 万円は用意できる状態が必要でしょう。

次に、**会社の運営歴ですが最低でも 3 年**は必要と言われています。
作ったばかりの会社で実態把握がし辛い状況ですと、審査に通すのは難しいです。

現状は、住信 SBI 証券口座は法人口座でも作り易いと言われていますが、
将来的に、今まで以上に作り辛くなるでしょうし、SBI の口座が作れたとしても
最初のうちは、レバレッジ 50 からなかなか上げてくれません。

加えて、国内法人口座は世界基準となっている売買システム
MT4 (メタトレーダー) を取り扱っている証券会社が本当に少ない > <

やはり、世界基準である MT4 を使って
トレードを行っているトレーダーから言わせれば、

他のプラットフォームを採用している証券会社でのトレードは
予想以上に面倒くさい手間が掛ってきます。

このように、非常にメリットの多いと思われがちな国内法人口座ですが、
それ相応の資本金と期間は必要となってきますので
全ての人にとって最適な選択とは決して言えません。

だからこそ、私は 2 段階方式で
まずは海外口座で資金を作りながら FX で勝ちきる方法を学び、

安定的に収益を積み上げる事が出来る常勝トレーダーに成長できた暁には
国内法人口座を作成し、しっかりと税務申告を行いながら
専業トレーダーとしての道を歩んで欲しいのです。

7. 4000万まで耐えて下さい。

本来なら2億まで・・・と言いたい所ですが、

国内法人口座のメリットも捨てがたい所なので、まずは4000万円作れるまでは海外口座を利用し一緒にFXを学びながら、共に地獄の苦しみを味わいましょう。

なぜ、4000万の準備金が必要なのかというと、

- ・会社設立と資本金の確保 330万程度
- ・会社運営費に掛るランニングコストの確保 500万円以上
- ・投資準備金 3000万円程度

が無ければ、法人口座にシフトする意味が無いからです。

私の推奨するハイロット戦略を学ぶのなら、将来的には、500万通貨、1000万通貨という金額規模でトレードして貰いたいと思っています。

3000万円の準備金があったとしても、レバレッジ50倍（国内法人口座の初期段階）ではMAX1500万通貨程度しか張れませんから

1回の取引額を準備金の1/3と換算した時、3000万円あっても500万通貨程度が限界となります。

500万通貨張れば、

1回のトレード成果も100万、200万という金額規模に成りますから充分すぎる成果を叩き出す事は可能だと思いますし、

私自身も教育ビジネスとの2足のわらじの現在は

1トレード500万通貨~1000万通貨程度でしかトレードしていません。

私も正直、たった50万円のスタートから、この取引額に上げるのは苦勞しました。地獄の苦しみと言っても過言ではないかもしれません。

でも、取引額が大きくなってからの成果は、どのビジネスよりも稼げるのは間違いない。
将来の夢の大きさを認識しながら、最初のうちは海外口座で我慢して行きましょう。

8. 海外口座のメリット・デメリット

もはや、海外口座なんて国内口座と比べるとデメリットの塊ですが、**そんなデメリットを打ち消すほどに、レバレッジという仕組みが無ければ、FXで稼ぐのに時間が掛ってしまいます。**

ココッ!!というチャンスに、最大限のアクセルが踏みこめるからこそ、1年間に5倍、10倍と資金が増えて行くのに、アクセルが全く踏み込めない国内口座では、どんなに頑張っても1年間で資金を2倍に増やすのが関の山でしょう。

ですから、耐えて下さい。

タートルズという世界的投資集団を作り上げたリチャード・デニスも『2億円までは苦しい』と著書に書いています。

2億あれば1億を不動産投資に回すことで、月に100万円弱の不労所得を得る事が出来ますから、それだけ精神的にゆとりのある環境下でトレードを行う事が出来ますよね。

ですから、最初の期間は海外口座を利用してレバレッジを効かせながら、渾身のワンショットを打ち込む練習を行っていきましょう。

なお、海外口座の税制に関してですが、国内口座の一律税率とは異なり累進課税となりますので、

195万円以下	→15%
195～330万円以下	→20%
330～695万円以下	→30%
695～900万円以下	→33%
900～1800万円以下	→43%
1800万円以上	→50%

という数字になります。

どんなビジネスも最初の1年目から大きく稼げる事はありませんので、最初の1年目は10万円～50万円程度の投資額を50万円～200万円程度まで引き上げる事を目標に、ゆっくりと頑張っていきましょう。

9. 永井大好き!! オージー系

海外口座は大きく分けて

マルタ系とキプロス系、オージー系の3つがあると覚えて下さい。

こういった違いがあるかということ、それぞれ証券会社が存在する国が違いますので、若干、レバレッジの大きさやスプレッド（手数料）の大きさに違いがあります。

様々な国に、様々な証券会社がありますが、やはり制度的に優遇されている、この3カ国は世界的にも有名です。

ですが、オージー系は2014年~2015年に掛けて日本の金融庁から**日本人の取引停止勧告を受けてしまった**ので、（日本からの資金流出防止のため）実質現在はニュージーランド系となっています。

それぞれの特徴を伝えますと、マルタ共和国、キプロス公国は世界的に見ても金融業に非常に強い国家であり、政治的にも金融業を推進している国家です。

オーストラリア、ニュージーランド系の証券会社は、マルタ系、キプロス系に比べサポート体制も充実しており、スプレッド（手数料）の小さいことから2010年頃から非常に多くの日本人に愛されてきました。

キプロス系に見られるストップレベルも無く、マルタ系よりもスプレッドは小さい事で、**私も愛用している証券会社はオージー系がメインです。**

ですが、先ほども伝えた様に金融庁の勧告があれば、再度、日本人の取引停止になる可能性はありますので、

その都度、新しく証券会社を探し、証券口座を作成し資金を移動させなければならない手間があります。

要するに**資金移動のリスク**があるという事です。ですが、今まで私が利用してきたオージー系の証券会社も

2社ほど『日本国内からの取引停止勧告を受け』撤退を余儀なくされましたが、入金していた資金は問題なく銀行口座に送金されました。

これは、私だけの話では無く、私の講義を受けて頂いている全ての方へ証券会社選別法を提供してきましたが、出金に対するクレームがあった事はありません。

ただ、1つだけお伝えしておく、

出金用の銀行口座に『ゆうちょ銀行』を使うのはおススメしません。

ゆうちょ銀行は民営化されたばかりで、日本国内での振込に関しても面倒臭い仕組みになっている為、海外送金となると面倒臭さが倍増します。

私も、オージー系で現在は使えないICマーケットという証券会社から出金を行う際、ゆうちょ銀行を指定した所、ちょっとしたエラーで手間が掛った事がありますので、出金用の銀行口座は都市銀やインターネットバンクの方が良いかもしれないですね。

なお、都市銀の場合は海外送金を受けた際、

電話にて『どのような理由の送金』なのかを尋ねてくる事があります。

こういった電話を鳴らされるのが嫌だという方、なかなか、仕事中に電話に出られないという方は、

出金依頼をした際、自分から銀行口座の支店へ電話を掛け、『FXで取引した入金がある』という事をお伝え下さい。

海外送金に関して不慣れな方もいらっしゃると思いますが、入金方法、出金方法なども丁寧に説明した動画を用意させて頂いていますので、どうぞ、ご利用頂ければと思います。

11. 永井が利用していた海外口座

私もこの資料を作り上げる為にかなりの数の証券会社の口座を作ってきましたので、1つ1つの証券会社に対してメリットデメリットを伝えても良いのですが、

全ての証券会社を説明していくと膨大な時間がかかりますので、直感的に理解して貰えるよう、ランキング形式にさせていただきました。

サポート体制が、まだましな海外口座は何気に少ないのが現状ですので、あれこれ説明するよりも下記の2つの海外口座を作っておけば問題無いと思います。

【永井翔が過去に利用していた 海外口座】

TitanFX 口座タイプ：BLADE 口座（オージー系ニュージーランド）

<http://www.titanfx.com>

XM 口座タイプ：XM-ZERO 口座（キプロス系）

<https://www.xmtrading.com/jp/>

海外口座に関しては、ほぼ同じ証明書（免許証と住所確認書類のコピー）で証券口座を作る事が出来ますので、出来れば1度に作っておいた方が楽です。

ニュージーランド系の証券会社はいつ利用できなくなるかわかりませんので、今のうちにXM（キプロス系）を持っておくに越した事はありません。

勿論、証券口座を作るのにお金は1円も必要ありませんし、入金リアルトレードを行う時に行えば良いので安心して作って下さいね。

なお証券口座の作り方マニュアルに関してですが、事項に説明動画のURLを付けておりますので、そちらを参考にして作成して頂ければと思います。

12. 海外口座 口座開設マニュアル

以下の口座開設マニュアルは動画マニュアルとなっておりますので、
前ページの証券口座のリンクをクリックしてから、

下記の口座開設マニュアルをクリックし、
動画説明の手順通りに口座開設を行ってください。

【TitanFX 口座開設マニュアル】

[TitanFX 口座開設方法](#)

[TitanFX 入金方法](#)

[TitanFX 追加口座開設方法](#)

[TitanFX 口座間資金移動方法](#)

[TitanFX 出金方法](#)

【XM 口座開設マニュアル】

[XM 口座開設マニュアルをダウンロードする](#)

[XM 口座開設方法](#)

[XM MT4 ダウンロード方法](#)

[XM 入金方法](#)

[XM 追加口座開設方法](#)

[XM 資金移動方法](#)

[XMZERO 口座を初めて利用するときに覚えておいたほうがいいこと](#)

[XM 出金方法](#)

13. NDD(ECN) 口座って何？

証券会社で証券口座を作る。一見簡単な作業だと思われるのですが、実は各証券会社には様々なタイプの証券口座があり、

ココを難しく考えるとドツボに陥り、FX が難しいモノだというイメージが付いてしまいます。

ですから、シンプルに

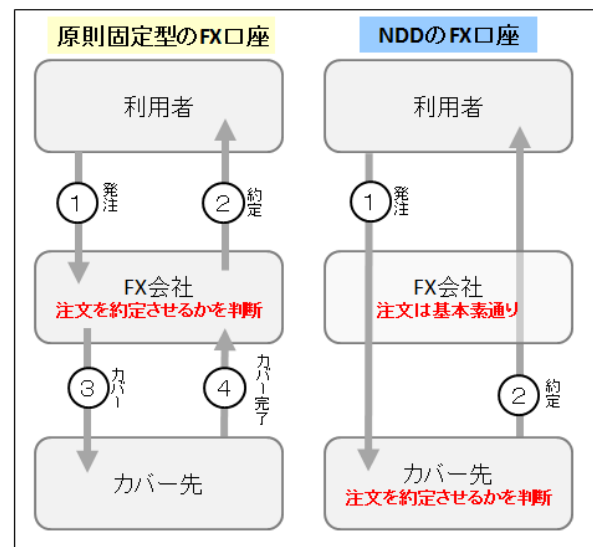
NDD 口座、ECN 口座の方がスプレッドが小さく得をする。
とだけ覚えておいてください。

右図の様に本来の FX 会社の運営とは、顧客からの取引依頼に対して、自社が損をしないように、カバー先を選ぶ必要がありました。

近年この NDD（ノーディーリングデスク）方式を採用した証券口座や、

IT の発展によって新たに生まれた ECN という（NDD 方式の一種）、電子証券取引ネットワークは、

NDD口座と原則固定型口座のしくみの違い



取引を簡略化する代わりにスプレッド（手数料）を小さくする **新しい口座タイプ**として注目されています。

あれこれ考えると、頭を混乱させる程、色々なタイプが存在しますので、難しく考えずに、NDD 方式の口座や ECN 方式の口座があれば、そちらを選択するのが一番良いと考えるようにして下さい。

ですから、少しだけ纏めると、私のおススメは

証券会社はオージー系。口座タイプは NDD or ECN 方式。

これだけ覚えて貰えれば充分です。

14. 永井翔が利用していた国内口座

最後に国内口座に関してですが、
特にどこの証券口座が良い悪いという事に大差はありません><

私的には信用のおける大きな会社であれば、
国内個人口座はどこでも問題ないと思っています。

ですが、私は基本的に MT4 が使えない証券会社は使えないと思っていますし、
EA(自動売買システム) を使ってトレードしたい人は MT4 が必須条件になってくるので
やっぱり世界的にも有名な Forex.com ですかね。

forex.com

<http://jp.forex.com/jp/>

【forex.com 口座開設マニュアル】

<https://youtu.be/l3gWaUi70Cg>

では、頑張って常勝トレーダーになれる様、
一緒に頑張っていきましょう。